



SANJO ROTARY CLUB

三條ロータリークラブ

2016.10.5 (No.2885)
週報 No.12

基本を学び、地域と共に

第2560地区ガバナー／田中政春
会長／川瀬康裕
会長エレクト／小出子恵出 (クラブ奉仕A)
副会長／松永一義 (クラブ奉仕B)
幹事／関川博
S A A／明田川賢一
会計／浅野金治

例会日／毎週水曜日 12:30～
例会場及び事務局／
三條市旭町2-5-10 三條信用金庫本店内
例会場／TEL 34-3311
事務局／TEL 35-3477 FAX 32-7095

E-mail : sanjo-rc@cpost.plala.or.jp
http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/
(～はshiftを押しながら“へ”のキーを
押してください)

■本日の出席会員数:55名中35名
■先々週出席率:92.31%

【ゲスト】

- ・国際ロータリー
第2560地区米山記念奨学委員長
田中雅史様 (新潟南RC)

【ビジター】

- ・白根RC 竹内一紀さん

【先週のメークアップ】

- [9.29] 燕RCへ
・荻根澤隆雄さん、中村和彦さん、
・加藤紋次郎さん、菊池 涉さん
- [10.1] 赤い羽根共同募金 街頭募金へ
・丸山行彦さん
- [10.4] 三條北RCへ
・菊池 涉さん、丸山行彦さん、
・木村文夫さん、阿部吉弘さん、
・加藤紋次郎さん、五十嵐晋三さん、
・齋藤弘文さん



2016～2017年度国際ロータリーのテーマ



会長挨拶

川瀬康裕 会長



みなさん今日は。

地区米山記念奨学委員長 田中雅史様ようこそいらっしゃいました。白根ロータリークラブ竹内一紀様ようこそいらっしゃいました。ごゆっくりなさってください。また、田中委員長には後程卓話よろしく申し上げます。

さて、今日は先月末、仙台で開かれた第6回認知症予防学会の話と昔話を少しさせていただきます。

23年前に開業した頃は「認知症になったらできることはない、ころり観音にお参りしてならずに死ねますように」とお参りした時代でした。早期診断をして小ボケのうちから出来ることをしようと、保健師と共に地域の公民館などで認知症啓蒙活動を浜松の脳外科医金子満雄先生が始めました。金子先生は脳外科医で脳動脈瘤の手術をして前頭葉の機能低下を評価するためにカナ拾いテストを考案しました。このカナ拾いテストを物忘れを訴える患者さんに使うと認知症の早期診断に使えることがわかりました。

しかし、医療界の大勢は早期診断、早期介入には否定的でした。

私は平成5年に開業し町の医者になってみると、物忘れだけを訴えて受診する人が多いことに気づきました。MRI検査

とカナ拾いテストなどを併用して早期診断を開始し、検査結果のデータベースを作ることを始めました。金子先生とその後「全国早期痴呆研究会」を発足し、水害の年に地場産センターを使い全国大会を三条で開催しました。7月に水害の被害に遭い、家もクリニックも水に浸かりましたが、なんとかクリニック全員力を合わせて9月の学会を成功させました。早期診断とともに認知症の人のやる気を引き出して、仲間と一緒に体を動かし、頭を使う「檜の森」プログラムを開発しました。このプログラムを併用した群と、薬のみの群を平成8年から平成14年まで6年間観察して認知機能の経過をみると、4年過ぎから明らかに認知症の進行が遅れることを確かめ論文発表しました。

その後日本に遅れてアメリカで早期診断の重要性に気づかれ、軽度認知障害という概念が発表されました。

私は鳥取大学の浦上克哉先生と認知症の予防を考える学会を平成21年に発足しました。平成25年に新潟市朱鷺メッセで「多職種連携」をテーマに第3回日本認知症予防学会を開催しました。同年12月英国で開催された認知症サミットでは、日本は「予防と介護」の分野で諸外国をけん引する役割を担うことになりました。また、この会議で平成37年に根本治療薬を創るという方針が採択されました。平成27年にそれまでのオレンジプランが新オレンジプランに変わりました。そのポイントは、認知症担当が厚労省のみであったのが省庁横断的に首相直轄プロジェクトとすることと、患者本人の立場からの視点の重視です。かつては早期診断、早期介入を否定し、予防などとんでもないと言っていた人々が一斉に早期診断、予防の重要性を語るようになりました。

いま我々は認知症になっても安心な街作り→認知症に優しい町づくり→認知症予防のできる街づくりを目指しています。運動、知的刺激、食事、社会的つながり、生活習慣病の管理、うつ病の治療などが脳を元気にし、病気による脳の機能低下に対抗し、進行を遅らせるというのが現在の流れです。今年の学会では神戸の市民団体が始めた「シニアのスピーチ大会」など面白く夢のある実践発表がありました。そして、これらのエビデンス作りが始まりました。20年来続けてきたことがやっと認められるようになりつつあります。

幹事報告

関川 博 幹事

◎田中ガバナー事務所より

「クラブ会長会開催のご案内」

日 時 11月5日(土) 12:30~12:50

会 場 長岡グランドホテル 2階・末広の間

議 題 地区改善策として3件を上程し、
賛否を問うもの。

◎次週 10月12日(水)は、「田中ガバナー公式訪問」

です。ジャケット・ネクタイ・ロータリーバッジ・
地区バッジをご着用ください。

終了予定は、15:00です。皆様のご協力をお願い
致します。

ニコニコBOX

川瀬康裕会長

地区米山記念奨学委員長 田中雅史様、歓迎致します。
卓話よろしく願いいたします。

60周年行事に協力して。

関川 博さん

今週末はいよいよ周年事業スタートです。読み聞
かせ頑張ります。

本日は田中委員長、卓話ありがとうございます。

白根RC 竹内様ようこそお越し下さいました。

山田富義さん

来年の4月15日、60周年記念式典まで半年余りに
なりました。宜しく願います。

田中雅史委員長、卓話ありがとうございます。

杉山幸英さん

地区米山委員長 田中様を歓迎致します。

60周年成功に御協力を御願い致します。

小越憲泰さん

今日は地区米山記念奨学の田中委員長様、卓話あ
りがとう御座います。

斎藤弘文さん

県央さんしん会のゴルフ大会が晴天に恵まれて盛
会に終わる事が出来ました。

樺山 仁さん

今夜、台風の風が弱いといいですが、さてどうな
るか。

本日の田中様の御活躍に期待しております。

小林敬典さん

とてもよいことがありました。

荻根澤隆雄さん

台風18号が心配です。皆様備え忘れなく!!
地区米山記念奨学委員長の田中様ご苦労様です。

船越良則さん

本日は父の命日です。お墓に行って手をあわせて
こようと思います。

阿部吉弘さん

台風が来ます!!
皆様お気を付けて下さい!!

渡辺良一さん

夏の終りに気付かずにネクタイをして来ませんでした!

田中委員長よろしくお願ひ致します。

木村文夫さん

卓話ありがとうございます。
都合により早退させていただきます。

熊倉昌平さん、若槻八十彦さん、西山徳芳さん、
伊藤寛一さん、金子俊郎さん、明田川賢一さん、
渡辺勝利さん、中村和彦さん、歸山 肇さん、
松永一義さん、中條克俊さん、渋谷健一さん、
高橋 司さん、小出子恵出さん、五十嵐昭一さん

地区米山記念奨学委員長 田中雅史様を歓迎申し上げます。

本日はご指導宜しくお願ひ致します。

10月5日分 ¥ 59,000
今年度累計 ¥ 567,000

「卓話」

「米山月間」



国際ロータリー第2560地区

米山記念奨学委員長

田中 雅史様 (新潟南RC)

ロータリー米山記念奨学事業
とは何でしょうか。

新しい会員だけでなく、ベテ
ラン会員の皆さんの中にも、
「今さら人には聞けないけど、

実はあまりよく知らない…」と、いう方がいらっしや
ると思います。まず簡単に、ロータリー米山記念奨
学事業についてご説明いたします。

ロータリー米山記念奨学事業とは、日本のロータ
リーが作った独自の事業で、34地区、全地区の合同
プロジェクトです。1952年に事業が始まって以来、
一貫して、日本で学ぶ外国人留学生を支援しています。

「公益財団法人ロータリー米山記念奨学会」とい
うのは、この事業をおこなうために、日本のロータ
リーが協同して運営する奨学財団で、財源はすべて
みなさんからのご寄付で成り立っています。

この奨学金の最大の特長は「世話クラブ・カウ
ンセラー制度」です。銀行振込が多い他の奨学金とは
違って、米山奨学生にはロータリー活動に共に参加
してもらい、交流することを大切にしています。

終戦翌年の1946年、“日本のロータリーの父”米
山梅吉氏が亡くなりました。3年後の1949年、戦争
のため解散を余儀なくされた日本のロータリーが、
国際ロータリーへ復帰します。戦後、落ち着きを取
り戻すにつれ、梅吉氏の功績を永遠に偲ぶことがで
きるような、何か有益な事業をやろうではないかと
いう声が大きくなってきました。

当時の日本はまだ食糧事情もはかばかしくなく、
会員たちは「クラブへ行けばお茶を入れてもらえる」
と、弁当を持参し、ストーブを囲みながら熱心に議
論をしていたそうです。

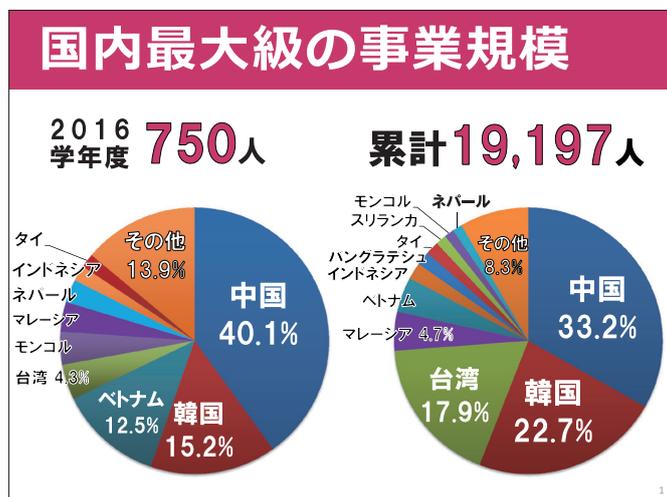
そして1952年、東京RCの古沢丈作会長が「米山
基金」の構想を発表しました。これは、アジアから
優秀な学生を招いて学費を援助し、二度と戦争の悲
劇を繰り返さないために“平和日本”を肌で感じて
もらいたい、というものでした。

こうして、東京RCが始めた「米山基金」は、わ
ずか5年で、日本の全ロータリークラブの共同事業
として継承され、1967年には財団法人ロータリー米
山記念奨学会が設立されました。

米山奨学金は、今では日本で民間最大の国際奨学事業となりました。2016学年度の奨学生は750人、2016年7月現在の累計で、世界124の国と地域から19,197人を支援しています。

奨学生の国・地域別の割合はグラフのとおりです。

(資料①)



左側、2016学年度は、中国が40.1%、つづいて韓国が15.2%、ベトナムが12.5%となっています。ベトナム・モンゴル・ネパールからの留学生が以前に比べて急増しています。

累計では、中国が33.2%、韓国が22.7%、台湾が17.9%の順となっています。

当地区では今年度、21人の奨学生を受け入れています。国・地域別には、中国・ベトナム・モンゴル・メキシコ・韓国・インド・エリトリア・カンボジアとなっています。

次に、米山奨学生は、どのように選ばれているかについてご説明します。

まず、地区が「指定校」を選びます。わが地区では指定校に対して、ロータリー活動に関心を示して積極的に協力する留学生を推薦してほしい、国籍が偏らないように推薦してほしい、など要望を出しています。指定校の中で学内選考が行われ、10月の締切に合わせて米山奨学生の候補者が推薦されてきます。推薦された学生を地区が面接し、最終的な合格者を決めています。合格の倍率は、全国平均で約2～3倍です。

かつて、ロータリークラブ推薦で奨学生を選んでいった時代もありましたが、公平性が保たれなくなったなどの理由により、1998年に廃止されました。現在は一部のプログラムを除いて、指定校から推薦さ

れた留学生を、地区の米山選考委員会が面接選考しています。

奨学生を選ぶ基準ですが、米山奨学金は、経済的に困っているから支援するものではありません。

また、国籍で判断もしていません。日本語が上手なだけでも、成績が優秀なだけでも、合格できません。

米山奨学事業の使命は、将来、日本と母国との懸け橋となる優秀な人材を育成することです。その資質がある留学生を、全国共通の評価項目にしたがって、公平に選考しています。

詳しい評価項目や点数配分は公表できませんが、「学業」・「異文化理解への柔軟性」・「コミュニケーション能力」などを総合的に判断し、公平に選考しています。

こうして私たちが支援した米山奨学生たちは、世界でさまざまな活躍をしています。

巣立った学友の活躍と、交流によって育まれた絆は、この事業の最大の成果であるといえます。

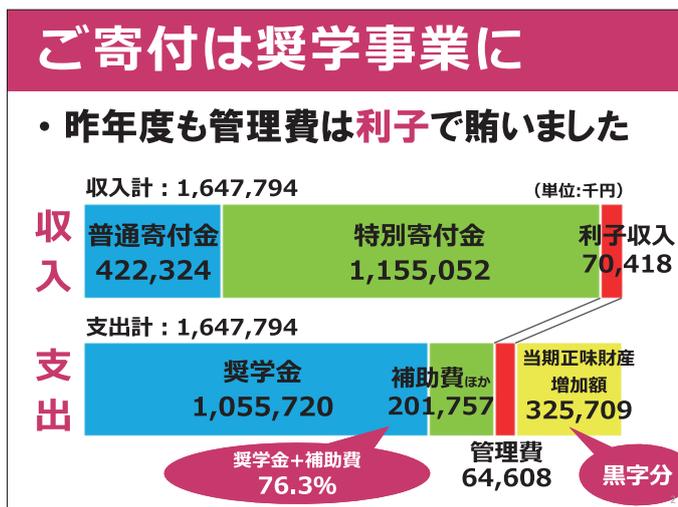
1万8千人以上の学友を一度にご紹介することはできませんが、豆辞典p17-18に学友の活躍が紹介されていますのでご覧ください。

奨学期間が終わったあともロータリーとの接点を持ち、学友同士の友情を深める学友会という組織があります。学友会は、日本国内に33、海外には台湾・韓国・中国・タイ・ネパール・モンゴル・スリランカと、7つの学友会があります。昨年度（2015-16年度）は海外に1つ、国内では第2720地区、第2750地区と2つ設立され、その数はどんどん増えつつあります。

皆さんの米山に対する日頃のご支援に心から感謝申し上げます。続いて、財政状況・当地区の寄付実績についてご報告します。

米山は、みなさまからの毎年の寄付金と、資産の利子収入だけで成り立っています。いただいた寄付は奨学事業だけに使い、管理費は利子収入で賄うよう努めています。

(資料②)



上のグラフは収入です。

昨年度の寄付金は15億7,738万円（普通寄付+特別寄付）で、12年ぶりに15億円を超えました。利子を合わせると、収入は全部で16億4,779万円でした。

下のグラフは支出です。奨学金、地区や世話クラブへの補助費などの事業費は全部で12億5,748万円、これに管理費を合わせても収入を大きく下回り、2015-16年度は3億円以上の黒字となりました。

奨学生採用枠を増やしているものの、寄付金が予想以上に好調でした。

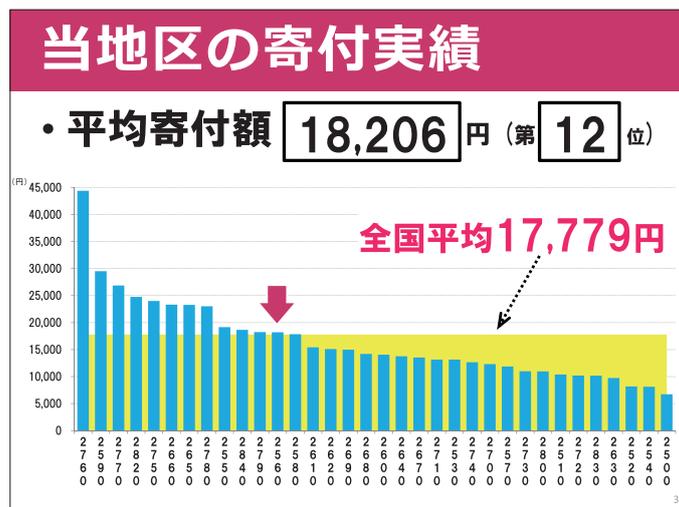
支出の赤い部分、理事会など会合旅費、管理部門の事務局人件費など「管理費」は、“利子収入”で賄うことができます。支出に占める管理費の割合は5%と非常に低く、公益性の高さを表しています。

さて、黒字は、一般企業では喜ばしいことですが、公益財団法人の場合には収入が事業費を上回ってはいけない、つまり、黒字になってはいけないというきまりがあります。

しかし、ここ3年は連続で黒字、特に2015-16年度は3億円以上の黒字となりました。

そこで、2015年度からは「奨学事業安定積立資産」を設け、剰余金を資産として一時的に積み立て、奨学事業に使用することになりました。米山では、寄付金はすべて奨学事業に使用するのが原則ですので、2017学年度の採用枠は780人（前年度+40人）とし、今後も状況に応じて奨学生を増やします。

(資料③)



このグラフは、地区別の個人平均寄付額です。

昨年度の個人平均寄付額の全国平均は17,779円、最も高かったのは、第2760地区（愛知県）の44,399円でした。

当地区はピンクの矢印が指している所で、一人平均18,206円、全国で第12位でした。

皆さんは、1年間で、どのくらいの方が特別寄付（クラブが送金する普通寄付以外の任意寄付）をしていると思われますか？

昨年度、全ロータリアンのうち特別寄付をした人の割合は全国平均で43.2%でした。ちなみに、第2650地区（福井・滋賀・京都・奈良）では86.5%、なんと9割近くのロータリアンが特別寄付をしています。当地区では65%の方にご協力いただいています。この割合を今後さらに増やすことができるよう、さらなるご協力をお願い申し上げます。

米山への寄付金は大きく分けて2種類があります。クラブが決めた金額を会員数分送金する「普通寄付金」は、全国平均が4,760円に対し、当地区は4,481円でした。

また、個人・法人・クラブからの任意の寄付、「特別寄付金」は、全国平均が13,019円、当地区は13,726円でした。

先ほどの“個人平均寄付額”は、この普通寄付と特別寄付を合わせた金額です。

特別寄付金の寄付者割合とは、会員の中で個人として特別寄付をした人の割合です。全国平均は43.2%、当地区は65.0%でした。法人寄付も、ぜひお願いいたします。全国平均は35法人、当地区は92法人でした。

米山への寄付は、所得税・法人税の税制優遇が受けられます。

「税額控除」と「所得控除」、どちらか有利な方を選択することができます。「税額控除」は、寄付額の約40%を、所得税額から直接控除することができるもので、「所得控除」よりも控除額が大きくなることが多いです。

例えば、課税所得が750万円の方が、10万円寄付した場合、税額控除の場合は3万9,200円も所得税が還付されます。

ガバナーが掲げる当地区の今年度の目標額は、1人当たり20,000円となっております。

地区で奨学生を何人採用できるかは、ほぼ、寄付額の全国比で決まります。来年の当地区の奨学生数は24人です。

1人でも多くの奨学生を採用できるよう、今年度の目標に向けてご協力をお願いします。

日本に大きな災害が起こるたび、世界中の米山学友から手が差し伸べられていることをご存じでしょうか。

その始まりは、1955年の新潟大火にさかのぼります。新潟市中心部が火事で壊滅的な被害を受けたというニュースを知った2人目の奨学生・イーペンさんは、1,000円の銀行手形を東京RCへと託しました。

2011年、東日本大震災のときには、世界の学友・現役の奨学生たちから約760万円が送られました。

今年（2016年）4月、熊本大地震の時には、第2640地区（和歌山・大阪）学友会、中国の上海学友会、タイ学友会から義援金が送られました。第2660地区関西学友会も募金活動をおこない、第2590地区（神奈川県）学友会はチャリティーコンサートを開きました。ネパールの学友が仲間とともに炊き出しをしたり、マレーシア出身の学友が単身で1週間、泊まり込みでボランティアをしたりもしました。こうした気持ちは日本に対してだけではありません。

ネパール大地震の時には、日本のロータリアンや奨学生・学友から1400万円が寄せられました。

ネパールに、米山学友という友人がいるからです。

米山学友の家族がいるからです。国を再建するためのリーダーとなり、必ずお金を有効活用してくれると確信しているからです。

今、ネパールの米山学友会ではこのお金で基金を作り、被災した学生たち24人を奨学支援しています。

「世界平和を達成するためには、人と人との交流が最も有効である」――。

国際交流がすぐ平和に結びつくわけではありません。うまく交流できない奨学生もいます。しかし、この地道な、一人一人と絆をつむいでいく活動を、日本のロータリアンは60年以上、続けてきました。そしてその成果は確実に出ています。

日本のロータリアンたちが受け継いできた米山記念奨学事業は、今を生きるわれわれロータリアンの誇りです。

先輩たちがつないできた米山の灯を、米山のたすきを、次の世代に伝えていきましょう！

ご清聴ありがとうございました。

～卓話の謝礼とお車代は、
米山BOXにご寄付頂きました。～



次週例会 10月18日 19日(水)→18日(火)
「市内4RC合同例会」 18:30開会点鐘
於 燕三条ワシントンホテル

次々週例会 10月26日 「ライラ研修報告」
青少年奉仕委員長 吉井直樹 会員

